

## 伸びる条件 —正解のない話題源—

「**伸びる条件**」というテーマで講話を行うとしたら、どのような柱立てにしますか。ここでいう「伸びる」とは、「力が付き、向上すること」です。

以下、私なりの考えを述べます。

第一は、「**素直**」であること。

素直な人は、物事をまず受け止め、言い訳をしません。自分の置かれた状況を踏まえ、アドバイスを蔑（ないがし）ろにすることなく、自身を伸ばす活路を見いだします。



第二は、「**誠実**」であること。

「誠実」とは、真面目で正直なことです。今日の若い世代に、真面目を「ダサイ」と捉える風潮があるのは由々（ゆゆ）しきことです。真面目を前向きに受け止める生活を大切にすることが、自己を向上させ、自信につながるからです。

私は、人の「伸び」を根底で支えるのが「自分に対する誠実さ」であると考えています。自身の夢や目標に真摯（しんし）に向き合い、状況に応じて計画を修正し、努力し続ける者の伸びしろは計り知れません。

第三は、「**勤勉**」であることです。

自身の夢や理想の実現に向けて折々に目標を掲げ、計画を立て、コツコツと努力を積み重ねること、「たゆまず、あせらず、おこたらず」の精神こそが、人を伸ばす原動力です。

この三つをもって自分自身を伸ばす、「**しなやかで強い人材**」を育てたいものです。

### 知識、見識、胆識

京セラ名誉会長、KDDI最高顧問、日本航空名誉顧問 稲盛和夫

知識を持つだけでは、実際にはほとんど役に立ちません。知識を「こうしなければならぬ」という信念にまで高めることで、それを「見識」にしていかなければいけない。しかし、それでもまだ不十分です。さらにその見識を、「何があろうとも自分は実行する」という強い決意に裏打ちされた、何事にも動じない「胆識」にまで高めることが必要なのです。

出典：「稲森和夫一日一言 運命を高める言葉」（稲盛和夫著 致知出版社）

※ 「胆」とは、いわゆる「きもったま」。ずっしりとした勇氣。めったなことに動じないことです。